

No.85

2025. 春

世田谷文学館 ニュース

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

世田谷文学館

開館30周年記念

攻殻機動隊
アップルシード
ブラックマジック
ドミニオン
仙術超攻殻オリオン

Saturday April 12 — Sunday August 17, 2025 / Setagaya Literary Museum

2025.4.12(土) — 8.17(日)
世田谷文学館

主催 世田谷文学館、講談社ハルコ 企画協力 青心社 特別協力 士郎正宗

The Exhibition of The World of Shirow Masamune — “The Ghost in the Shell” and The Path of Creation —

©士郎正宗 講談社 ©士郎正宗 青心社

「AIとの共創をめざして 世田谷文学館、これからの10年」 亀山郁夫(世田谷文学館館長)
2025年度 開館30周年記念 展覧会事業のご案内
2024年度 展覧会事業のご報告



東芝映像ソフト『ドミニオン ACT.1 犯罪軍団』ビデオパッケージ
© 士郎正宗 / 青心社・ユーマックス



「アップルシード」第1巻予告ポスター
© 士郎正宗 / 青心社



『攻殻機動隊 THE GHOST IN THE SHELL』カバー
© 士郎正宗 / 講談社

士郎正宗 (しろう・まさむね)

兵庫県生まれ。漫画家・イラストレーター。
1980年にマンガやイラストの分野で活動開始。
1985年に『アップルシード』で商業デビュー。
1989年に代表作『攻殻機動隊』の連載を開始。
アニメ作品『ブラックマジック M-66』には共同監督として参加している。
そのほか、ゲームや画集などさまざまな制作分野で活躍。

本展覧会では、多様な広がりをもせる作品群と現在の活動までを、〈アナログ原稿〉〈デジタル出力原稿〉で辿るとともに、作家の蔵書やコメントもふんだんに紹介し、「士郎正宗」のパーソナルな部分にも迫ります。

開館30周年を迎える世田谷文学館が、これまで取り組んできた〈漫画〉〈SF〉展示の集大成となる、「士郎正宗」初の大規模展覧会をお楽しみください。

日時指定制 ＊観覧料等の情報は8頁をご覧ください

く、『攻殻機動隊』。超古代の魔術師たちと召喚された神々が「仙術九頭龍」をめぐって争うファンタジー作品『仙術超攻殻ORION』。

地を踏みしめながら生きる身体存在であるかぎり、自己の同一性を求める心が枯れることはない。他方、私たちの人間の本能には、「自己保存」という優れた機能が備わっている。その機能こそが、今、私たちがひそかに待みとする時代から時代へと記憶を引き継ぐ「懐古」の力となる。例えば、ここに昭和和歌を代表する傑作の一つがある。

「売りにゆく柱時計がふいに鳴る横抱きにして枯野ゆくとき」

半世紀前に、私自身、一時、胸を焦がしたところのある詩人、寺山修司が、今、セブンの一角で静かなブームを呼びおこしている。森薫と入江重季の、鮮烈なエポスの世界の傍らに静かにたたずむ昭和の鬼才。21世紀の困難な時代を生きる若い生命が、まさに生きて在ることの証を求めてここを訪れてくる。その光景を見るたびに、「懐古」の力を感じ取り、勇気づけられる。いや、これはもはや、「記憶」の引き継ぎどころではない、芸術そのものの持つ不滅の原始性ともいえるべきものではないか。

そして、今、今後10年の文学館の未来を占うべく改めて生成AIに問いかけようとしている。「世田谷文学館は、生成AIとのコラボを通して、今後、どのような創造的な展開を実現できるでしょうか。自発性を大切に、できるだけ具体的に問いを重ねてみよう。今は、確かめるすべもないが、おそらくは、一人ひとりの問いに対し、驚くほど紳士的で、そのない、答えを返してくるにちがいない。しかも創造性にあふれる答えを！ 恐るべし、生成AI。幸いあれ、未来のパートナーたち。われらがセブンが永く生き延びる道を教えよ！

AIとの共創をめざして 世田谷文学館、これからの10年



世田谷文学館 館長
亀山 郁夫

「第4次AIブーム」の幕開けから3年、生成AIの進化は止まるところを知らず、日常生活からビジネスにいたるあらゆる局面を「浸食」しつつある。しかし、この「浸食」という表現も、いずれはその不穏当を理由に却下されるときが来るだろう。私は必ずしも性善説に立つ人間ではないが、生成AIの未来に対して、尽きることのない可能性の泉を予感している。今は、ChatGPTと軽いキャッチボールを楽しむ程度のつきあいでも、いずれは心優しき人生のパートナーとして大いに活躍してくれることを期待している。何より手続きが簡単である。問いを投げ、答えを得る、そしてまた投げる。丁寧さを心がければ、相手もそれ相応の丁寧な答えを返してくる。そのそつのなさが好ましく、モニター画面の背後には黒子が潜んでいるのではないかと時に錯覚させられることもある。ある日、私は少し意地悪な質問を投げかけてみた。「世界終末時計」の話題にかけ、「世界の終りは具体的にいつ来ますか？」と問うてみたのだ。すると、とても三歳の幼児とは思えない、紳士的な答えが返ってきた(内容はあえて明かさない)。そうはいえ、時々はその年齢にふさわしい、やんちゃな振舞いに出る。苦し紛れの嘘をつく。やんちゃ、つまりは不確実性ということだが、そのもどかしさに慣れてしまえば、楽しみはさらに広がるだろう。書かれては瞬時に消える自分のためのエンサイクロペディア。ひと頃、友人は心配顔でこう尋ねたものだった。AIにモーツァルト並みの音楽は書けるのか、AIにドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』に匹敵する小説は書けるのか。その問いの奥には、AIへの対抗心がちらついていたが、今はもうライバル視することそのものの不毛さに気づいているのではないか。人類がいわゆる「特異点」(シンギュラリティ)に達した暁には、人間かAIかの二者択一は意味をなさなくなり、創造者の名さえ不要とされる時がくる。そんな時代に備え、AかBかの二者択一ではなく、AもBも享受できる感性のしなやかさ、そして、生まれいずるものをすべてを等しく寿ぐ、そんな大らかさを手に入れたと願う。

世田谷文学館 開館30周年記念 企画展「士郎正宗の世界展」『攻殻機動隊』と創造の軌跡

2025(令和7)年度
開館30周年記念事業

熱狂的な人気を誇る『攻殻機動隊』の作者・士郎正宗は、1985年にSF漫画『アップルシード』でメジャーデビュー、1989年に

『攻殻機動隊』の連載を開始しています。当時はまだ世に浸透していなかった先端技術を独自の感覚で取り入れた、情報化社会の現代を

予見しているかのような世界観は、多くの人々たちを魅了してきました。細部まで描きこまれた絵、膨大な情報で組まれたプロット、〈欄外〉にまで及ぶ作家の言葉が、作品に熱量を持たせるとともに、読む人の想像力をかきたてます。哲学的な

探求が織り込まれる士郎正宗の世界観に、多くのクリエイターが影響を受け、様々なジャンルで作品を生み出し続けています。

超人級のコンピュータ〈メシス〉が政治を担う金星文明世界を描いた、初期作品集『ブラックマジック』。第五次大戦後、廃墟となった街で生きていたSWATのデューンと全身サイボーグのブリアレオスの姿を描くSFアクション『アップルシード』。『警察戦車隊』所属のレオナと愛機の小型戦車・ボナバルトの、悪党・武悪一味との戦いをコミカルに描く『ドミニオン』。首相直轄の攻性組織「公安9課」の戦いを描

世田谷文学館開館30周年記念

企画展「ドナルド・キーン展」(仮称)

2025年11月15日(土)～2026年3月8日(日) 2階展示室



16歳 コロンビア大学入学頃

ドナルド・キーン (Donald Keene) はアメリカ合衆国出身の日本学者・日本文学者です。1922年にニューヨーク市に誕生、16歳でコロンビア大学文学部に入学。在学中に、アーサー・ウエーリィ訳「源氏物語」(2巻版)や日本思想史を教えていた角田柳作との運命的な出会いがあり、日本文学へ高い関心を持つようになります。

その後、海軍日本語学校で学び、太平洋戦争時には語学将校として、戦争の悲惨さを目撃します。終戦後、除隊したキーンはコロンビア大学、ハーバード大学の大学院で「国性爺合戦」などの日本の古典作品を研究、1953年にはケンブリッジ大学での講義をもとにした『Japanese Literatures (『日本の文学』) を刊行します。

1953年8月から1955年5月まで、

京都大学大学院へ留学し、この間、歌舞伎や能、狂言といった伝統芸能を鑑賞。日本文化を身体で学ぶために狂言・文楽の稽古をつみ、名だたる文学者たちの前で「千鳥の太郎冠者を演じ、披露しています。

この京都留学時代には、多くの文化人と交遊を結んでいます。生涯の友人となった永井道雄と嶋中鵬二。そして、嶋中を通して、谷崎潤一郎や川端康成、三島由紀夫などの作家たちとの知遇を得ます。帰国後もキーンは頻繁に日本を訪れ、文学者たちと親しく付き合っています。

長らくニューヨークと日本の往復生活が続けていたキーンでしたが、2011年3月11日の東北震災を機に日本国籍取得を決意。翌年3月に国籍を取得しました。

キーンの著作は、海外に日本文化・日本文学を紹介する役割を果たしています。『日本文学の歴史』は英語で書かれた数少ない日本文学通史となっています。また、多くの弟子が日本文化の研究者として活躍し、その仕事は現在も継承されています。そして、「碧い目の太郎冠者」の広く鋭い視点に支えられた分析は、日本人にとっても自国の文化を再発見する機会を与えてくれます。

世田谷文学館開館30周年記念にあたる「ドナルド・キーン展」では、キーンの生涯とともに

「世田谷文学館開館30周年 コレクション展」

海野十三と日本SF

2025年4月26日(土)～9月28日(日) 1階展示室

〈日本SFの父〉とも呼ばれる海野十三(1897～1949)は戦前から戦後にかけて数々の空想科学小説を書き、絶大な人気を博しました。手塚治虫や小松左京ら、後に



海野十三 行灯ラジオを発明したところ

SF第一世代となる作家たちは、子ども時代はみな海野の愛読者でした。

真空管の開発に携わる科学技術者だった海野は1928年、「電気風呂の怪死事件」でデビュー。異色の探偵作家として知られるようになります。以後、少年向けの科学冒険小説ジャンルを開拓しつつ、ロボットやロケット、人工臓器、地球外生命、宇宙戦争、タイムトラベルなど多様なテーマを豊かな想像力と科学者としての知見に基づくりアルな筆致で描き出していました。

本展では、海野十三の軌跡を追いつつ、同じく世田谷に住んだ横溝正史や小栗虫太郎との友情、さらに海野の影響を色濃く受けた手塚治虫、星新一、小松左京、筒井康隆、豊田有恒らSF第一世代の仕事もご紹介し、いま現在も小説、マンガ、アニメ、映像、ゲームへと無限に表現を広げていく日本SFの想像力の源流に迫ります。

* 観覧料等の情報は8頁をご覧ください

彼の著作を辿り、あらためて日本文化とは何か、日本文学とは何かを考え、目まぐるしく変化するグローバル社会のなかで生きていくためのヒントを探りたいと思います。

また、本展では、日常を楽しむ達人であったキーンの人柄と生活の部分にもスポットを当てます。大好きだった音楽や料理。友人たちとの交流や収集品。身の周りの品々からはユーモアのある人柄を感じることが出来ます。彼の素顔を知ること、生活を楽しむコツを学ぶことができるでしょう。

養子であるキーン誠己氏とドナルド・キーン記念財団の協力のもと、未発表資料とともに、その魅力をお伝えします。

* 観覧料等の情報は8頁をご覧ください



2018年6月 執筆風景



2017年12月22日 自作の料理と

「世田谷文学館開館30周年 コレクション展」

世田谷線・100年間のものがたり(仮称)

2025年10月18日(土)～2026年3月31日(火)予定 1階展示室

1925年、玉川電気鉄道(通称・玉電「たまでん」)の支線として開業した「下高井戸線」。1969年の玉川線・砧線の廃線に伴って「世田谷線」と改称されましたが、「玉電「たまでん」」の愛称はいまも引き継がれ、下高井戸・三軒茶屋間を時速40km・18分で結ぶ2両編成の路面電車として親しまれています。

世田谷線沿線にはこれまで多くの作家たちが暮らし、また、多くの作品の舞台ともなりました。林芙美子とは下高井戸線・世田谷線開業と同じ1925年に、三軒茶屋駅から徒歩ほど近い長屋に越し、「放浪記」にそこの日々を綴っています。竹久夢二は1924年に松原に自宅兼アトリエを建て、翌年初めて家の前を電車が通った日の情景を「出帆」に描きました。近年では北杜夫、遠藤周作、佐藤愛子といった作家たちが、世田谷線沿線に暮らしながら、自身の代表作といえる作品に沿線風景を登場させています。

本展では、世田谷線開業以降2025年までの100年のあいだ、この沿線が紡がれたたくさんの物語を、作家たちのエピソードも交え

世田谷線下高井戸駅、1970年 画像提供: 東急株式会社



ながらご紹介します。

* 観覧料等の情報は8頁をご覧ください

資料受贈報告
2024年7月31日～2025年1月30日

▼池澤一郎様 石井耕様 今井恭子様 中江俊夫様 方良里様 藤田博様 宝迫典子様 柳公英様

▼尼崎芸術文化協会 池波正太郎記念文庫 射水市大島絵本館 愛媛人物博物館 大岡信研究会 大島博光記念館 風花随筆文学賞実行委員会 神奈川近代文学館 紙の博物館 川崎市大山街道ふるさと館

北九州市立文学館 国立国会図書館国際子ども図書館 越谷市立図書館野口富士明文庫 高志の国文学館 小諸市教育委員会 さいたま文学館 埼玉県平和資料館 斎藤茂吉記念館 坂の上の雲ミュージアム 佐々木信綱研究会 四季派学会 司馬遼太郎記念館 集文社 シュークリュー 成城大学民俗学研究所 世田谷区立郷土資料館 芹沢文学研究会 たましん地域文化財団 田山花袋記念文学館 茅野市美術館 鶴岡市立藤沢周平記念館 東京都教育委員会

富山県歌人連盟 中原中也記念館 日本歌人クラブ 沼津市芹沢光治良記念館 野田宇太郎文学資料館 野村胡堂あらえびす記念館 俳人協会 福岡町立柳田國男・松岡家記念館 ふくやま文学館 文化書房博文社 文京ふるさと歴史館 松戸市教育委員会 松山市立子規記念博物館 三鷹市美術ギャラリー 三鷹市山本有三記念館 宮沢賢治学会イーハトーブセンター 武者小路実篤記念館 山梨県立文学館 やまなし文学賞実行委員会 山の本文庫 横尾忠則現

代美術館 横浜市技能文化会館 与謝野晶子倶楽部 吉田紘二郎顕彰会 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

▼「海」「海紅」「カプリチオ」「経堂雑記」「今日の花」「原型富士」「心の花」「始更」「春耕」「抒情文芸」「川柳研究」「双鷲」「蠶」「短歌人」「探偵随想」「地中海」「飛火」「風」「プチ★モンド」「文芸思潮」「文章歩道」「焔」「本のバーキング」「窓」「ランブル」「暦日」

(五十音順・団体名敬称略)

「企画展示」

「伊藤潤二展 誘惑」

2024年4月27日（土）～9月1日（日）
2階展示室

伊藤潤二（1963～）は岐阜県中津川市に生まれ、歯科技工士として勤務する傍ら、「月刊ハロウィン」に初投稿した『富江』でデビュー。その後、『首吊り気球』『死びとの恋わずらい』『うずまき』など唯一無二の作品を発表し、日本のみならず世界中から注目を集めています。

本展は、伊藤潤二初の大規模な個展として自筆原画やイラスト、絵画作品約600点を展示。「人間の本能的な恐怖心や忌避感を巧みに作品に映し出しながらも、日常と非日常、ホラーとユーモアを自在に行き来する作品世界に『震える』『ひと時』をテーマに、全5章構成としました。

「序章 JUNI」IOでは、アイズナー賞受賞や30を超える国と地域での翻訳出版など、世界的な活躍を紹介。「第1章 美醜」では『富江』『死びとの恋わずらい』を中心に、美しさと醜さを行き来するホラーの哲学と卓越した画力を紹介しました。「第2章 日常に潜む恐怖」では、『うずまき』を中心に、子どもの頃に怖いと思ったものや、日常と隣り合わせの恐怖を描いた作品を紹介。「第3章 怪画」では、「絵画」に「怪しい絵」という



オリジナルグッズ「あざみのうずまきロリポップ」と伊藤潤二



会期最終日に館内放送で展覧会の来場者へ感謝を伝える伊藤潤二

意味が込められた「怪画」という造語を名付け、漫画原画や水彩画や油絵などのカラー作品を展示。1枚の絵に込められた物語を表現する構成力で来場者を魅了しました。最後の「第4章 伊藤潤二」では、愛用品や文学賞（星新一「ショートショートコンテスト賞」）に投稿した作品、少年時代の自作の漫画本、ベットの思い出など、伊藤氏の人柄や創作にかけた思いを紹介しました。他にも会場内に「富江」の新作フィギュアや、おみくじコーナー、参加型メディアアートコーナーなど、様々な関連コーナーを設置。会期後半にはライブドローイング作品や自作ポーズ人形などを追加展示しました。

インバウンド効果も高く、平日も海外からの来場者が多く訪れるなど、熱狂的なファンからこれまで

で伊藤潤二作品に触れてこなかった層まで、幅広い来場者から好評を博し、最終日まで賑わいが絶えない展覧会となりました。



会場風景

「企画展示」

「漫画家・森薫と入江亜季展

——ペン先が描く緻密なる世界——」

2024年11月2日（土）～
2025年2月24日（月・祝）
2階展示室

森薫と入江亜季。二人の漫画家は同年代であり、同時期にデビュー。そして、同じ雑誌で連載を重ねてきたという共通点があります。このような関係性のもとに合同展は成り立ちました。

本展では初期作品から現在連載中の作品まで400点以上の漫画原画を展示しました。二人はアナログの手描きにこだわり、インクによって原稿用紙の上に緻密な世界を構築しています。両者ともに繊細かつ力強い線画を描きますが、テーマや色づかい、コマ割りやセリフ等にそれぞれの



▲展覧会のための描き下ろしイラスト。
右が森薫「砂漠の姫とカラカル」、左が入江亜季「シバと朝顔観音」。
赤と青、猫と犬というモチーフで対になっています。

▼大型の手描き絵画。開催前日に描き上げられたものです。



二人の担当編集者である大場渉氏を司会に、三人のトークイベントも開催され、多くのご応募をいただきました。また、『青騎士』交流会inセタブンでは雑誌編集部への原稿の持ち込みやファン同士の会話など、漫画好きにとっての交流の場となりました。



展示会場風景 画像は全て、撮影：鈴木渉

「シーズン展示」

「小説と映画の世紀展 追悼・菅野昭正名誉館長」

2024年9月21日（土）～10月20日（日）
1階文学サロン

フランス文学者・文芸評論家、当館名誉館長の菅野昭正（1930～2023）の最後の著作『小説と映画の世紀』を展覧会で取り上げました。19世紀の終わりに誕生し20世紀に発展をとげた映画は、1930年生まれ菅野の世代にとって、ともに育ち、黄金期を経験した身近な存在です。本書は、菅野が長いあいだ胸に抱き続けていた、言語と映像を表現媒体とする二つの芸術ジャンルの関係性について考察を試みたもので、菅野が論考する時代を映し出した12篇の作品を、映画ポスター等の資料とともに紹介しました。

文芸誌「すばる」（2018年3月～19年2月号）に連載した本作の自筆原稿をはじめ、読売文学賞受賞作『ステファヌ・マラルメ』（1985）の初出誌「海」、2007年から当館館長を務めた時期の「作家の館長対談」記事などを展示しました。また、映画『第三の男』（1949年）上映や、菅野を知るフランス文学者や小説家によるトークイベント、近隣映画館の下高井戸シネマとのコラボ上映企画などを実施し、小説と映画の関係についてあらためて考える機会となりました。



撮影：栗原 諭

「前期コレクション展」

「巴里土産 小堀杏奴油彩画展 ～滞欧作を中心に～」

2024年4月20日（土）～9月1日（日）
1階展示室

随筆家・小堀杏奴（1909～98）は、若き日に日本洋画壇の重鎮、長原孝太郎と藤島武二のもとで絵画を学んだのちパリに渡り、1932年から翌年末にかけてアカデミー・ランソンなどで画業に励んだ経歴を持ちます。パリからは与謝野鉄幹主宰の歌誌「冬柏」に随筆を寄稿し、この時期は後の文筆活動の礎にもなりました。当館ではご遺族から、世田谷区梅丘にあった画家の夫・小堀四郎との旧宅、アトリエに保管されてきたこの時期の油彩作品とスケッチ類の寄贈をうけ、1934年2月の第21回光風会入選作2点を含む滞欧作などの修復を続け、本展で一堂に披露しました。

帰国後に絵の師となった四郎の芸術に深く感銘を受け、支える側に立つと決めたことで自身の画業は道半ばとなりました。しかし、四郎も滞欧作に「傑作」「優秀作」など裏書きしている通り、修復によって蘇った作品の伸びやかな筆致と、濁りない明るい色彩感覚と銜いのない表現に対して、来観者からは戦前期にパリで制作を行った他の女性作家とともに、改めて同時代の絵画群の中に位置づける機会を期待する声も届きました。



撮影：栗原 諭

「後期コレクション展」

「寺山修司展」

2024年10月5日（土）～2025年3月30日（日）
1階展示室

本区ゆかり作家・寺山修司（1935～83）については、これまで企画展や常設展のコーナーでご紹介してきましたが、今回は関連する収蔵品を一堂にご覧いただきました。会場は2部構成で、第1部「世田谷区下馬 演劇実験室『天井桟敷』の設立」では、演劇と映画に関する業績を、女優・新高恵子氏からの寄贈資料約100点で紹介しました。床一面には拡大した関連地図を配し、周囲に台本の改定原稿を多数展示することで、作品が完成するまでの過程を辿ることができる空間となりました。また、第2部の「手紙魔・寺山修司」では、推理作家・仁木悦子のご関係者から受贈した、寺山直筆の手紙など約40点を展示しました。寺山は『言葉の錬金術師』とも呼ばれ、短いフレーズで鮮烈に記憶に残る名言を数多く残していますが、その文才は手紙からも読み取れます。また同時開催のムットーニコレクションでは、ムットーニ（武藤政彦）氏とご関係者から、本展に合わせて作品をセレクトし、特別出品していただくことで相乗効果が生まれる展示会となりました。

*「没後20年 寺山修司の青春時代展」（2003年）、「帰ってきた寺山修司」（2013年）



榎本了吉作図「市街劇『人力飛行機ノロモン』（新宿篇・1970）」上演地図

撮影：鈴木渉

世田谷文学館カレンダー

2025年4月～2026年3月
Setagaya Literary Museum
April 2025 - March 2026

企画展

開館30周年記念

企画展「土郎正宗の世界展～『攻殻機動隊』と創造の軌跡～」

2025年4月12日(土)～8月17日(日) 日時指定制

世田谷文学館 2階展示室

〔観覧料〕

一般1,500(1,200)円/65歳以上・大学・高校生900(720)円/小・中学生450(360)円/障害者手帳をお持ちの方750(600)円(但、大学生以下は無料)

* ()内は団体割引[20人以上]と「せたがやアートカード」割引料金

オンラインチケットを販売いたします <https://eplus.jp/setabun2025shirow-ex/>

* チケット販売の詳細は、変更する場合がありますので事前に、世田谷文学館ホームページ(<https://www.setabun.or.jp/>)をご覧ください

* 電話でのご予約は受け付けておりません



開館30周年記念

企画展「ドナルド・キーン展」(仮称)

2025年11月15日(土)～2026年3月8日(日)

世田谷文学館 2階展示室

〔観覧料〕

一般1,000(800)円/65歳以上・大学・高校生600(480)円/小・中学生300(240)円/障害者手帳をお持ちの方500(400)円(但大学生以下は無料)

* ()内は団体割引[20人以上]と「せたがやアートカード」割引料金

画像提供: 一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

*掲載の催事は変更や延期になる場合があります。ご確認の上お出かけください

*Schedule may be subject to change or postponement. Please confirm before your visit.

コレクション展

開館30周年記念 前期コレクション展

海野十三と日本SF

2025年4月26日(土)～9月28日(日)

世田谷文学館 1階展示室

〔観覧料〕

一般200(160)円/大学・高校生150(120)円/65歳以上・小・中学生100(80)円/障害者手帳をお持ちの方100(80)円(但、大学生以下は無料)

* ()内は団体割引[20人以上]と「せたがやアートカード」割引料金

* 世田谷区内在住・在学の小中学生は、土、日、祝、休日コレクション展は無料になります

開館30周年記念 後期コレクション展

世田谷線・100年間のものがたり(仮称)

2025年10月18日(土)～2026年3月31日(火)

* 会期中中に年末年始・整備休館あり

世田谷文学館 1階展示室

〔観覧料・予定〕

一般220(180)円/大学・高校生170(130)円/65歳以上・小・中学生110(90)円/障害者手帳をお持ちの方110(90)円(但、大学生以下は無料)/生活保護受給者は無料

* ()内は団体割引[20人以上]と「せたがやアートカード」割引料金

* 世田谷区の区民利用施設では、施設使用料等が2025年10月1日より改定されます。上記の金額は改定後の観覧料となります

同時開催 ムットーニコレクション



海野十三『地球人最後の冒険』
(1948年 高志書房)



竹久夢二『出帆』
(1940年 アオイ書房)

First Half Collection Exhibition

Juza Unno and Japanese Science Fiction

Saturday, April 26, 2025 to Sunday, September 28, 2025

Concurrent Exhibition: Muttoni Collection

Admission Fees

General admission:/200 (160); College or High School Student:/150 (120); Over 65/Junior High and Elementary School Student:/100 (80); Disability certificate holders:/100 (80) yen (Disability certificate holders of college age and below are admitted free of charge)

* Amounts in parentheses group discounts [20 or more] and reduced rates for holders of the Setagaya Arts Card

* Elementary and junior high school students living or attending school in Setagaya city, are admitted free on weekends, national holidays.

Second Half Collection Exhibition

Setagaya Line: 100 Years of Stories (tentative name)

Saturday, October 18, 2025 to Tuesday, March 31, 2026

Concurrent Exhibition: Muttoni Collection

Admission Fees

General admission:/220 (180); College or High School Student:/170 (130); Over 65/Junior High and Elementary School Student:/110 (90); Disability certificate holders:/110 (90) yen (Disability / Free for welfare recipients certificate holders of college age and below are admitted free of charge)

* Amounts in parentheses group discounts [20 or more] and reduced rates for holders of the Setagaya Arts Card

* Facility fees for Setagaya city residents will be revised on October 1, 2025. The above amounts are the revised fees.

30th Anniversary Special Exhibition

The Exhibition of The World of Shirow Masamune - "The Ghost in the Shell" and The Path of Creation

Saturday, April 12, 2025 to Sunday, August 17, 2025

Admission Fees

General admission:/1,500 (1,200); Over 65/College or High School Student:/900 (720); Junior High and Elementary School Student:/450 (360); Disability certificate holders:/750 (600) yen (Disability certificate holders of college age and below are admitted free of charge)

* Amounts in parentheses group discounts [20 or more] and reduced rates for holders of the Setagaya Arts Card

Exhibition Tickets

Online tickets and same-day tickets are available.

* For details regarding online tickets, please see the SETAGAYA LITERARY MUSEUM website (<https://www.setabun.or.jp/>).

* We cannot accept phone inquiries.

30th Anniversary Special Exhibition

Donald Keene Exhibition (tentative name)

Saturday, November 15, 2025 to Sunday, March 8, 2026

Admission Fees

General admission:/1,000 (800); Over 65/College or High School Student:/600 (480); Junior High and Elementary School Student:/300 (240); Disability certificate holders:/500 (400) yen (Disability certificate holders of college age and below are admitted free of charge)

* Amounts in parentheses group discounts [20 or more] and reduced rates for holders of the Setagaya Arts Card

利用案内

開館時間: 10時～18時(展覧会入場は17時30分まで)

休館日: 毎週月曜日(月曜が祝日の場合は開館し翌平日休館)

年末年始(12月29日～1月3日)

館内整備期間

割引料金: 企画展・コレクション展ともに

団体(20名以上)は2割引。

* 団体利用は事前にお問合せください。

障害者手帳をお持ちの方は一般料金の半額。

交通案内:

京王線「芦花公園」駅南口より徒歩約5分

京王線「千歳烏山」駅南口より徒歩約13分

小田急線「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)「芦花恒春園」下車徒歩約5分



Visitor Information

Opening Hours: 10:00 am to 6:00 pm (last admission 5:30 pm)

Closures: Every Monday (Closed Tuesday when a national holiday falls on Monday)

New Year holidays (Dec.29-Jan.3)

Facility Maintenance Period

Access:

about 5-minute walk from Roka-koen Station's South Exit (Keio Line)

about 13-minute walk from Chitose-karasuyama Station's South Exit (Keio Line)

about 5-minute walk from Roka Koshunen (take Keio Bus from Chitose-Funabashi Station [Odakyu Line] towards Chitose-karasuyama Station [Keio Line])

公益財団法人せたがや文化財団 **世田谷文学館 SETAGAYA LITERARY MUSEUM**

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10 1-10-10 Minami Karasuyama, Setagaya-ku, Tokyo 157-0062

Tel. 03-5374-9111

<https://www.setabun.or.jp/>